

「土砂災害から命を守るために」

みどり市立笠懸西小学校 五年 岩森 斗哉

近年ぞう加けい向にある土砂災害の発生件数は、10年間で平均1450件もあるとされているそうです。日本は島国であるためなのか、世界でも災害の割合が高い国とされていることもあり、ぼくたち一人一人が正しい情報と自覚をもつことが大切なことだと思いました。

ぼくはまず、何が大事か何が必要かを考えました。一つは、命が大事なのはもちろんですが、その命を守るためには、もしもの時を考えて水や食料、救急用品、防寒具などの防災グッズを家に備えておくことが必要だと思いました。あと、頭を守るためにヘルメットも必要ですね。二つめは、正確な情報を一人一人が知っておくことです。ひなん場所の確認やハザードマップポータルサイトなどで確認できる土砂災害けいかいくいきを知っておくことが必要であると思いました。正しい情報は自分の命を守るために必要なことです。だれも死にたくはない、家族のだれも死んでほしくはないと思っっているはずです。気持ちの余ゆうは油断です。不幸な思いをしないように準備して災害に備えることが大切なことだと思っています。

ぼくはまだ土砂災害の経験をしたことがありません。ですが、テレビで災害のニュースを見ることは何度もありました。土砂が民家に流れていく様子を見て、思わずテレビごしに「うわあ・・・やばい・・・」と言っってしまうほど自然災害のおそろしさを感じました。今、人が流されたんじゃない？あの家の中に人はいなかったのかと思ったり、実さいに土にうもれて命をなくす人も多くいたりして、もし自分だったらと思うと死にたくはないという思いが強くなりました。命をなくし残された家族の人の心の想いを考えると、とてもむねがいたみます。ですが、時間がたってしまうと危機感がだんだんとうすれていき、そのまま事態がおきてしまった後かいする結果となってしまうという人も少なくないのではと思います。とくにぼくのようには災害経験がない人が多数だと思います。

どうしたら実体験のない人に危険性と自覚をもってもらうことができますか。小学五年生のぼくならの考えですが、自覚をもつといってもどうやって？となると思います。そのためにはまず、人の心に届くような実体験をした人の話を聞いたり、ノンフィクションの映画やSNSなどによる発信を目にすることで、災害のおそろしさと命の大切さを改めて感じてもらうことからなのかなと思います。また、ボランティア活動にも参加してみるのもいいなと思いました。あたりまえの生活があたりまえではなくなってしまう人たちの心にしみついた思いをぼくも聞いてみたいです。

ぼくの家には少し前まで防災グッズなどがありませんでした。テレビニュースでも災害のおそろしさから身を守るために必要なことで防災グッズが紹介されていたので母にそのことを伝えました。母も家に防災グッズがないことを心配していたようで、母にはちゃんと自覚があったのだなと安心しました。今では家族の人数分の水や食料、防災グッズが家に備えられています。もし災害にあったときは、早めの判断とひなんをして自分の命、家族の命を守ることが第一に考えて行動することを心がけます。